

令和 2 年度シラバス (芸術科 音楽)

教科 (科目)	芸術 (音楽 I)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年
使用教科書	教育芸術社 『高校生の音楽 1』				
副教材等	教育芸術社 『New Music Note』 啓隆社 『高校生の歌集 つどい』				

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 指導の重点

楽曲に応じた表現技法や音楽の要素を知覚し、曲想をとらえた表現を工夫する。
 表現 (1) 歌唱… 曲種に応じた発声の特徴を生かし、イメージをもって表現する。
 (2) 器楽… 楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫する。
 (3) 創作… 楽典の基礎を学び、反復・変化・対照等構成を工夫して創作する。
 鑑賞 楽曲の文化的・歴史的背景を理解した上で、音楽の要素を知覚して魅力を味わう。
 我が国および郷土の伝統音楽の特徴を理解して鑑賞する。

3 学習計画

学期	月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法	
1 学 期	4 月	歌唱	校歌 翼をください 夏の思い出 他	曲種に合った発声の習得 歌唱に対する意欲の育成	2 6	歌唱テスト	
		楽典	音名 記号	読譜・写譜 楽譜(記号)の理解		ノート提出	
	5 月	1 学期中間考査					
	6 月	器楽	鍵盤楽器 (ピアノ)	基本的な奏法の習得		発表会	
		鑑賞	バレエ音楽 ボレロ ピアノの名曲	音楽の構成を理解し、表現の美しさを味わう 音色の美しさを味わう		鑑賞シート	
		1 学期期末考査					
	7 月	アンサンブル	ひまわりの約束 夏の思い出	声を用いてアンサンブルを体験する		歌唱テスト	
創作		簡単な作曲	主要三和音をもとに作曲に挑戦する	ノート提出			
夏 休							
2 学 期	9 月	歌唱	イタリア歌曲 サンタ・ルチア	外国語の歌詞を通して表現の工夫をする	歌唱テスト		
		器楽	ギター	基本の奏法 コードネームの理解	発表会		
	10 月	2 学期中間考査					
	11 月	楽典	音符 休符 拍子	リズムと拍子の理解 指揮法	ノート提出		
		鑑賞	歌曲	音楽の構成を理解し、表現の美	鑑賞シート		

		交響曲	しさを味わう		
	12月	2学期期末考査			
		アンサンブル	クラッピングカルテット	クラブ（拍子）のリズムアンサンブルを体験する	28 発表会
	冬休				
3学期	1月	歌唱	世界の歌 校歌	諸外国の音楽への理解を深める 卒業式に向けての校歌練習	発表会 鑑賞シート
	2月	器楽	ハンドベル	アンサンブルを楽しむ	
	2月	鑑賞	日本の伝統音楽 民族音楽	日本や世界の伝統音楽を知る	
	3月	学年末考査			
	3月	学習の まとめ			16
合計				計70時間（50分授業）	

4 課題・提出物等

歌唱・器楽・創作については演奏表現。 鑑賞・楽典についてはワーク・プリント・ノート提出。

5 評価規準と評価方法

学習内容のまとまりごとに、下記の4つの観点に基づいて評価を行う。	
① 音楽への関心・意欲・態度	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。
② 音楽表現の創意工夫	音楽を形作っている要素を知覚し、働きを感受しながら歌唱、器楽創作の音楽表現を工夫している。
③ 音楽表現の技能	自己イメージを持ち、創意工夫した音楽表現のために必要な演奏技能の習得に努力している。
④ 鑑賞の能力	音楽鑑賞に興味を持ち、楽曲の誕生した背景や音楽史などへの理解を深めている。
以上の観点を踏まえ、授業への取組（意欲・態度）、歌唱の実技テスト、楽器演奏発表、鑑賞ノートの記述・提出状況、楽典テスト などから総合的に判断して評価する。	
定期考査（テスト）について ・学期ごとに、歌唱・器楽・創作の表現テスト及び発表会をする。 ・鑑賞・楽典についてはワークシート及び提出物により評価する。	

6 担当者からの一言

音楽活動を通しての自己表現、情緒の安定などを目標として、クラス全体・グループ及び個人の指導を行い、日常生活の中でも音楽を楽しめるように進めていく。

令和 2 年度シラバス（芸術科 美術）

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	2 単位	学年 （コース）	1 学年
使用教科書 副教材等	日本文教出版社 『高校生の美術 1』				

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・ いろいろな素材を楽しく体験することにより、作る喜びや愛好する心情を育てる。
- ・ 完成作品を展示することにより、自分と他の生徒の作品を客観的に鑑賞する能力を伸ばす。

3 学習計画

学期	月	単元名	教 材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 月	スケッチ	・スケッチブック ・鉛筆 ・アクリル絵具	・ 屋外へ出て自然を描き、その美しさや季節を感じる。 ・ 静物デッサンでもものの質感や形を表現できるようにする。	2 6	・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢 ・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢 ・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢
		切り絵	・色画用紙（黒） ・カッター	・ カッターの使い方を学ぶ。 ・ 白黒作品の美しさを感じる。		・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢
2 学 期	夏 休 み 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 月					
		切り絵	・色画用紙（黒） ・カッター	・ カッターの使い方を学ぶ。 ・ 白黒作品の美しさを感じる。	2 8	・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢 ・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢
3 学 期	冬 休 み 1 月					
		木彫手鏡	・木彫素材 ・彫刻刀 ・紙やすり	・ 手鏡の形態を生かしたデザインを考える。 ・ 陽刻、陰刻の違いを意識して彫る。	・ 提出作品 ・ 課題に取り組む姿勢	
		木彫手鏡	・木彫素材	・ 手鏡の形態を生かしたデザ		・ 提出作品

学 期	1	七宝	・彫刻刀 ・紙やすり	インを考える。 ・陽刻、陰刻の違いを意識して彫る。	1 6	・課題に取り組む姿勢
	2 3 月		・七宝素材 ・七宝絵具	・銅板の上に七宝絵具を乗せ、830℃で焼成しその美しさや不思議さを味わう。 ・作品の鑑賞方法を学び、自分の意見、感想を書く。		・提出作品 ・課題に取り組む姿勢 ・レポート
合計						計 7 0 時間 (5 0 分 授 業)

4 課題・提出物等

- ・各学期ごとに課題に添って制作し、完成させた作品を提出する。
- ・出来上がった作品を鑑賞する。

5 評価規準と評価方法

次の4つの観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに下記のように評価を行う。	
①美術への関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
②発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。
③創造的な技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を工夫して表している。
④鑑賞の能力	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、その良さや美しさを創造的に味わっている。
以上の観点を踏まえ、授業態度の評価、製作過程の評価、作品の評価などを考慮し総合的に評価する。	
定期考査（テスト）について	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査は行わない。 ・課題作品、レポートの提出。 	

6 担当者からの一言

- ・丁寧な作品作りを心がけてください。
- ・出来上がった作品は、家で飾ったり使用したりしてください。
- ・教材費が必要となります。

令和 2 年度シラバス（芸術科 書道 I）

教科（科目）	芸術（書道 I）	単位数	2 単位	学年 （コース）	1 学年
使用教科書	教育図書 『書 I』				
副教材等					

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 指導の重点

- ・ 古典に基づく臨書の学習や創作技法演習を通して芸術としての書についての理解を深めます。
- ・ 書道教室の使用方法について心得なければいけないことを身に付けます。
- ・ 書く、聞く、話すといった学習活動のけじめを大切にします。

3 学習計画

指導計画内容に変更が生じた際には、変更後の指導計画をお知らせします。

学期	月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4 月	学習を始める前に	プリント 配付	・ 高校入学前までの書写書道学習に関するアンケートを実施する。 ・ 「書道のきまり」について説明する。	2 6	提出課題 授業態度
		基本的な学習	教科書 P 4～7	・ 用具用材についての学習 ・ 筆の持ち方についての学習		
	5 月	漢字の書「楷書学習」	「牛橛造像記」 「顔氏家廟碑」 「九成宮醴泉銘」	・ 各古典の運筆、線質、字形の特徴を理解する。 ・ 各古典を臨書して提出する。		提出課題 授業態度
	6 月	篆刻		・ 筆の使い方次第で線質が変わり、それにより書の表情や印象に変化が表れることを理解する。		提出課題 授業態度
	7 月	競書大会	プリント 配付	・ 新潟県競書大会出品課題の学習		提出課題 提出課題 授業態度
2 学 期	夏 休					
	9 月	漢字の書「創作」		・ 文化祭作品の創作の学習（凧、はがきを使用）		提出課題 授業態度
	10 月	漢字の書「行書学習」	「蘭亭序」 「風信帖」	・ 各古典の運筆、線質、字形の特徴を理解する。 ・ 各古典の臨書をして提出する。		提出課題 授業態度

	12月				2 8	
	冬休					
学	1月	漢字かな交じりの書「創作」	「いろは」	・横長の紙に口をつけて出てくる自由なことばを自由に書く。および親あての手紙文を書く。	1 6	提出課題 授業態度
	2月	仮名の書		・仮名が出来るまでの歴史を学習する。 ・美しい仮名の書き方を学ぶ。 ・平安時代の仮名古筆を臨書するとともに、変体仮名や連綿についても学習する。		提出課題 授業態度
	3月	一年間の復習		・色紙等を使い、自由に作品を作る。		提出課題 授業態度
合計					計70時間 (50分授業)	

4 課題・提出物等

・毎時間終了時に課題を提出させます。

5 評価規準と評価方法

次の4つの観点に基づき、下記の規準で評価を行う。	
① 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に創造活動に取り組もうとしている。
② 書表現の構想と工夫	書の良さや美しさを感じ、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
③ 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために効果的な表現の技法を身につけている。
④ 鑑賞の能力	日常生活の書の効用や書の伝統文化を理解し、書の良さや美しさを楽しんでいる。
以上の観点を踏まえ、課題の提出状況、作品表現の工夫、授業態度(出席状況含む)等を勘案し、総合的に評価する。	
定期考査(テスト)について ・定期考査は行いません。	

6 担当者からの一言

小・中学校までの書写の得意、不得意は関係ありません。毎時間与えられる課題や目標をどんな気持ちで取り組めるかが評価の高低につながります。1時間1時間の授業を大切にしてください。